

まわりまわって -風を導く家-

■concept

琵琶湖からの風が入る心地よい空間を作る。ピロティで風の抜けを作り、建物の形状で風を導くことで、色々なところにまわりまわって風が通っていく。その風の道と動線が一致するように住宅を設計した。道路からは奥まで覗くことができず、曲線にそって歩いてみることで、全体がわかるようになっていく。住宅全体に回遊性をもたせ、外部と緩やかにつながる空間を作った。内部に開かれた空間を作ることで、太陽の光を取り込み、またその光が風の流れを作ってくれる。座ったり、寝たり、本を読んだり、ただその場所を楽しんだり、多様な使い方ができる空間を設けた。その日気に入った空間で、その日だけの変わりゆく風を楽しんでもらいたい。

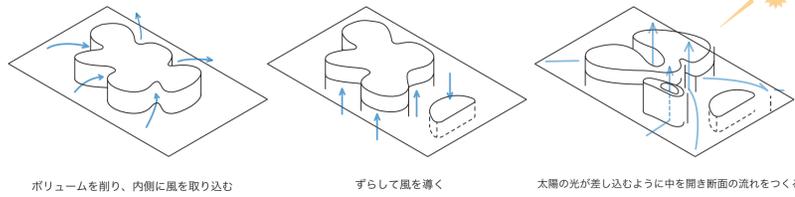


▲風の道が集まる場所

■site / resident

敷地は滋賀県彦根市八坂町にある。70mほど歩けば湖岸に着き、そこには高い木が鬱蒼と生い茂っている。周辺の住宅街には、時には強く、時にはかすかに、木の間を通り抜けた琵琶湖の風が流れ込む。住民は45歳男性の大学教授。料理が好きで、どこにでも寝るのが好きな人だ。また、時々訪れる女性を招く家でもあり、子供ができるまでは過ごせる家になりたい。

■diagram



▲車を降りてエントランスへ向かう道

▲風の流れと動線が一致し、その風は背中をそっと押してくれるよう

▲ベランダから見る地下書斎

●ざわざわ・ぶわっと

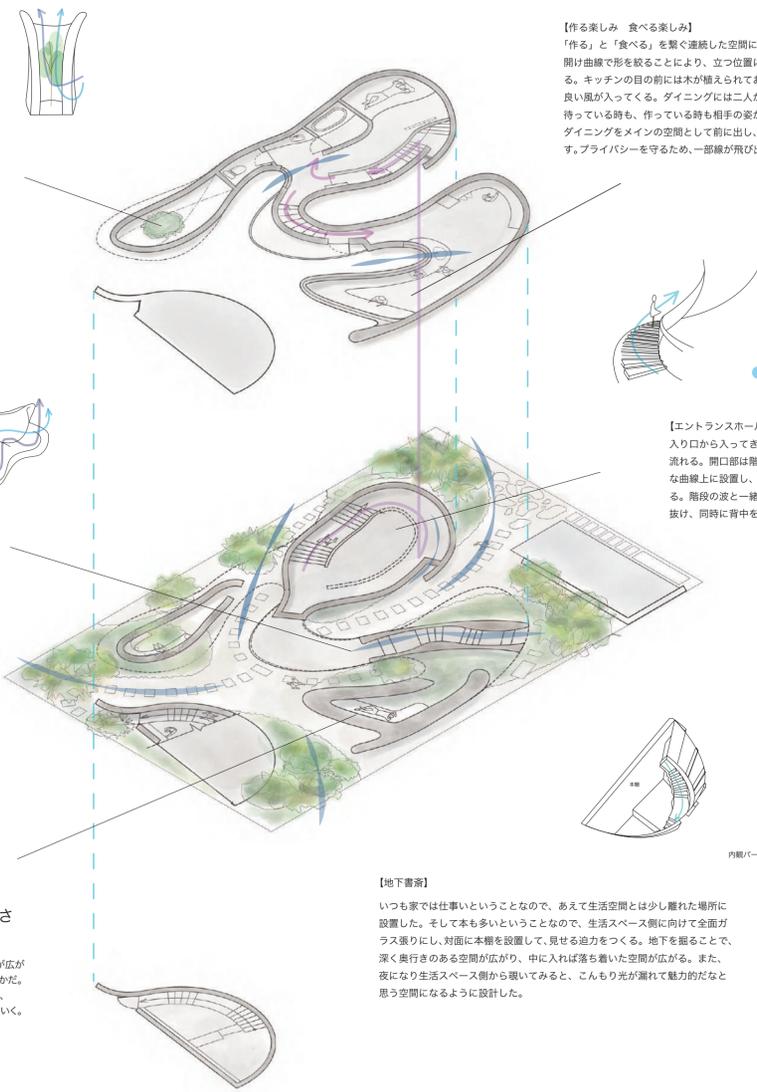
【大きな木下】
見上げれば高さ4mほどの木がゆらゆら揺れている。下から上にかープした壁面を木と共に、時には風は力強く舞い、時にはざわざわとした心地よい空間が広がる。ベンチで本を読むのもよし。昼寝をするのもよし。

●ゆらゆら

【隠れ道】
壁面、地面ともに波打つ形になっており、立つ位置によって感じる風が異なる。入り口を絞っているため全体的に狭い空間であるように思えるが、ちょうどそこに入って来る風を感じられることで、心地よい空間が広がる。

●かさかさ

【どっしり壁の中】
分厚い壁に囲まれ、重みのある深い空間が広がる。そのため風は少し入ってくる程度で静かだ。近くに植えられた木が風に揺られ揺れ音を出し、その音が静かな空気とともに空間に入っていく。

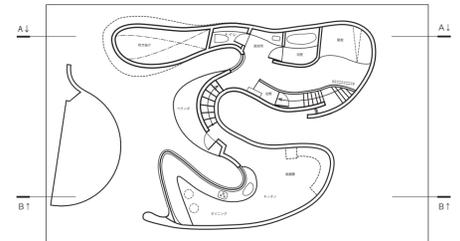


【作る楽しみ 食べる楽しみ】
「作る」と「食べる」を繋ぐ連続した空間になっている。窓を連続的に開け曲線を描くことにより、立つ位置によって見える景色が異なる。キッチン目の前には木が植えられており、窓を開けると気持ちの良い風が入ってくる。ダイニングには二人が並んで食べることができ、待っている時も、作っている時も相手の姿が感じられる。キッチン・ダイニングをメインの空間として前に出し、広々とした空間を作り出す。プライバシーを守るため、一部縁が飛び出したような形をしている。

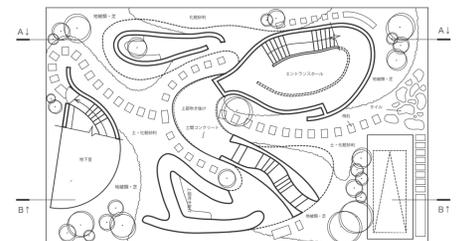
●ぐるっと

【エントランスホール】
入り口から入ってきた風が上部の開口部へと流れる。開口部は階段が途切れないよう新たな曲線の上に設置し、繋がり風の流れを作る。階段の波と一緒にふわとした風が体を抜け、同時に背中を押してくれるだろう。

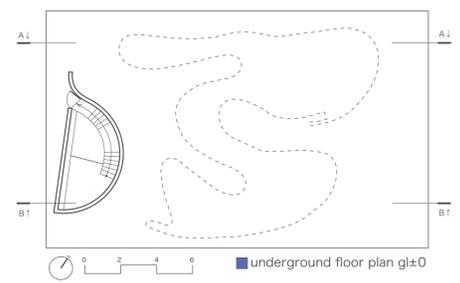
【地下書斎】
いつも家では仕事ということなので、あえて生活空間とは少し離れた場所に設置した。そして本も多いということなので、生活スペース側に向けて全面ガラス張りにし、対面に本棚を設置して、見せる迫力をつくる。地下を掘ることで、深く奥行きのある空間が広がり、中に入れば落ち着いた空間が広がる。また、夜になり生活スペース側から覗いてみると、こもり光が溢れて魅力的だと思える空間になるように設計した。



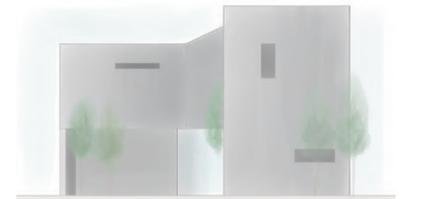
■ second floor plan gL+5000



■ first floor plan gL+2400



■ underground floor plan gL±0



■ elevation